

# 台風5号に対する被害防止対策について

## 普通作物

### 1 水稻

現在の生育ステージは、ハナエチゼンが穂ぞろい～乳熟期、早植コシヒカリが穂ばらみ～穂ぞろい期、遅植コシヒカリが減数分裂期、きぬむすめが幼穂形成～減数分裂期であり、5月上中旬植コシヒカリ、山間部ハナエチゼン等が一番注意を要する。

#### (1) 事前対策

ア 強風による脱水を防ぐため湛水状態とする。特に出穂期前後のイネはダメージを受けやすいため、できるだけ深水湛水とする。

イ 浸冠水被害を考慮し、排水路の清掃、補修及び畦畔の補強を行う。

ウ 畦畔等の刈草を処分し、用水路などに流出させない。

エ 潮位がかなり高まることが予想される。沿岸地域等では塩水の逆流防止対策を講ずる。

#### (2) 事後対策

ア 浸冠水した場合は一刻も早く排水できるように努める。

イ 倒伏した場合はできるだけ早く株起こしを行う。この場合、株元が挫折しているときは無理な立て直しがかえって損傷を大きくするので、隣の株上に穂を上げる程度とし、排水を良くする。

ウ 高潮により塩水が流入した水田では、真水のかん排水を繰り返して除塩する。また、沿岸地域等で海水を巻き上げ、葉にかかり、かつその後の降雨がない場合は塩害が起こるので、可能な限り真水の散布を行い、洗い流すようにする。

エ 浸冠水7～10日後からアワヨトウの発生に注意する。

### 2 大豆

今年の大豆は長雨の中で育っており根量が少ないため、少しの乾燥でも影響が大きいと考えられる。

#### (1) 事前対策

圃場内の作溝の再点検を行うとともに、排水路の清掃、補修を行う。

#### (2) 事後対策

ア 表面水を速やかに排除するように、排水対策を行う。

イ 降雨を伴わない風台風の場合は速やかに畝間かん水などを行い、吸水を促す。

# 野菜

## 1 事前対策

### (1) 施設野菜

- ア 天窓、側窓、出入口等は開かないよう密閉、固定する。被覆資材は押さえ金具、バンドの締め直し、バンド固定パイプの補強、屋根、棲、接地部のビニールのたるみや破れを補修する。骨組や、防風ネットはしっかりと固定補強する。
- イ 排水溝を整備し、圃場周辺の排水路を掃除して大雨に備える。排水ポンプ等がある場合には動作を確認しておく。
- ウ 하우스周囲を清掃し、木片などの飛来をなくす。
- エ 休閒ハウスはビニールを除き、ビニールの破損やハウスの被害を防ぐ。
- オ 収穫できるものは可能な限り早目に収穫する。
- カ 強風時にも頻繁に点検して破損は見つけ次第補修するとよいが、安全を優先して無理な作業を避ける。
- キ 高温や過湿により換気せざるを得ない場合は風下側で行なう。
- ク フィルムの破損が著しい場合メロン、トマトは誘引紐を切ってつるを倒し、ハウレンソウではカンレイシャ等を直掛けする。
- ケ 最悪の場合、パイプハウスでは人の安全を確かめながら被覆フィルムを風下側から裂き、ハウスの倒壊を防ぐ。

### (2) 露地野菜

- ア ナス、ピーマン等は仮支柱に誘引し、アスパラガス等は防風ネット、支柱の補強を実施する。排水溝を整備し、出荷可能な果実は収穫する。
- イ ブロッコリー等では土寄せして株元を補強する。
- ウ いちご等の苗床はカンレイシャを直掛けする。セル成型苗等の育苗トレイ苗などは、納屋やハウスへ移動し被害を防ぐ。
- エ マルチ栽培では、裾の覆土、押さえ資材（マルチトンボ等）の確認と補強を行い、風雨による浮き上がりを防ぐ。

## 2 事後対策

### (1) 施設野菜

- ア 風が弱まったら風下側から順次開いて換気し、骨組の変形や緩み、フィルムの破れは補修する。
- イ 支柱、誘引紐の切れ、緩みは点検して立て直す。
- ウ たまった水はただちに排出する。畝から浸出する水も通路に穴を掘って集め排出する。
- エ 浸水により土壌が過湿になった場合はマルチを畝の肩までめくるか除き、乾燥を促す。
- オ 台風が去った後は、好天による強光、高温、乾燥が続く場合があるので、遮光資材があれば準備しておく。
- カ 速効性の液肥を施用し、場合によっては葉面散布も併用して草勢の回復を図る。
- キ 出荷可能な果実は収穫する。折れた枝や傷果は除き、殺菌剤を散布する。
- ク 壊滅的な被害を受けたら速やかに片付けし、代替作物の準備を行う。

### (2) 露地野菜

- ア 溜まった水は直ちに排出し、根を傷める恐れのない場合は中耕する。いちご等の

汚れた葉は洗う。

イ 台風が沿岸部を通過した場合は塩害の恐れがあるため、清水を散水して塩分を除去する。

ウ 倒伏した株は早めに起こし、支柱の立て直しや補強のやり直し、誘引等を行う。

エ 出荷できるものは早めに収穫し、折れた枝や傷果等は除き、速効性液肥の施用、葉面散布を行なう。

オ 葉、果実等の傷からの病害感染を防ぐため、雨が上がった直ちに殺菌剤を散布する。

カ 定植間もなく被害が大きい場合には、植え直したり、苗の手配を早めに行う。

## 果 樹

### 1 事前対策

#### (1) 施設

ア 収穫が終わったハウスで被覆のビニールがある場合は直ちに除去し、ビニールの破損やハウスの被害を防止する。

イ 被覆している場合は風下のサイドの一部を風抜き用に開け（ネットはあって良い）、筋交（ズガキ）を入れハウスの強度を高める。また、押さえのバンド等の締め直しをする。

ウ 被覆したハウスが倒壊しそうな時は、風下側からビニールを切り裂く。

エ 果樹棚はフレ止めの控え線、突き上げ柱ともにしっかり固定しておく。

オ 棚線や控え線の錆びて切れそうなものは事前に取り替えておく。ハウス支柱パイプの地際部や谷パイプで錆びて折れそうなものは補強しておく。

カ 飛散して被覆ビニールを破損しそうな物を施設周囲から除去しておく。

#### (2) 露地・作物

ア 収穫時期に達しているものはできるだけ収穫しておく。

イ 風当たりの強いところでは、支柱による倒伏防止や枝裂け防止の誘引等を行う。

ウ 柿は大雨による滞水で根の障害を受けると、樹上軟化の多発生が予想されるので、表面水が速やかに園外へ排出されるように園内排水溝をもうける。特に粘質土壌でタコツボにより植え付けされたところでは注意が必要である。

エ 梨果実の落下は、棚の上下動によって起こるので、棚が風で吹き上げられないようにアンカーを多めに入れたり、鉄パイプを縦横に入れて補強する。また、袋かけした果実をガムテープや買い物袋等で側枝に固定する。

エ 梨では大雨により滞水すると根の障害から早期落葉となるので、表面水の速やかな排水対策を行う。

#### (3) その他

傾斜地の果樹園では、今後の大雨によって崩れる心配があるので特に注意を要する。

## 2 事後対策

### (1) 施設

果樹棚が倒壊した場合には、下から防除できる程度に持ち上げ、薬剤散布を行いその後、棚を修復する。

### (2) 露地・作物

ア 葉、果実等に傷が多くついており病菌の侵入が予想されるので、雨があがったら直ちに殺菌剤を散布する。

イ 沿岸部を通過した場合は、潮害の恐れもあるので台風通過後に降雨がなければ、葉の塩分付着状況（なめて判断）を見て多量の散水を行う。

ウ 倒木は新たに根が切れない程度に引き起こし、主幹部の地際部に盛り土をして踏みつけ、晴ればかん水して乾燥を防ぎ、再び揺すられないように支柱でしっかり固定をする。

エ 太い枝が折損した場合は枯れ込みが入らないように、ひび割れた部分は切り返して保護剤を塗る。

オ 葉の破れ等が著しい樹や、新梢が折損した樹で新しい芽が伸びてきた場合は新葉2～3枚で摘心し、成葉化をはかる。

カ 樹勢回復には有機質を主体とした肥料を施す。（ただし遅伸びを助長するような多量のチッソの施用はしない。）

キ 落葉や葉の破れ等が大きく、果実がついている場合は葉数（葉面積）に見合うように摘果する。ただし、柿では全落葉でも着色するので、軟化した果実や損傷の程度が大きいもの、果実の小さいものを最初に除く。

### (3) その他

ア 樹体の障害は被害直後から徐々に現れてくるので、数日間は樹園地を回り樹（果実、葉等）の変化を観察する。

イ 西条柿では落葉の程度によって着果量を減らす。摘果は果実の小さいもの、汚損果などからできるだけ早く行う。

ウ 各果樹とも著しく落葉した場合、礼肥の施用量は有機質肥料を中心に基準量より少な目に行う。

## 花 き

### 1. 事前対策

(1) 排水溝の補修、排水ポンプのチェック等を行い豪雨に対応できるように備える。

また圃場周辺の排水路や排水口も掃除して水の流れをよくしておく。

(2) 防風ネットのある圃場ではネットや支柱の補強を行う。

(3) 強風によって倒伏、茎折れ、花・葉の損傷、黒変等を生じるので、支柱やフラワーネットの補強を行う。その際床を踏み固めないよう注意する。

(4) 木片、小石等の飛来によりビニールやガラスが破損するので、ビニールハウス等の施設周辺の片付けを行う。

- (5) ビニールハウスはビニールの破れ箇所の補修、押さえバンドの補強、押さえバンド取り付けパイプの浮き上がり防止対策を行う。また天窓や横窓等隙間ができないように修理しておく。
- (6) 強風時は天窓、側窓、出入り口は密閉固定する。ハウスが強風に耐えられないと判断される時はビニールを切り裂き倒壊を防ぐことも考慮するが、あくまでも人の安全を最優先する。ビニールハウスで中に作物が栽培されていない場合は前もってビニールを除去しておく。
- (7) 収穫可能なものは早めに収穫する。
- (8) 育苗箱、セル成型トレイ等で育苗中の苗や鉢物等は必要に応じて納屋等の建物へ事前に移動する。

## 2. 事後対策

- (1) 圃場内の停滞水は速やかに排水し、過湿による障害発生を防ぐ。冠水により汚泥を被った株は清水で洗い流す。
- (2) 倒伏した株は早めに引き起こし、支柱の立て直しや誘引をやりなおす。定植間もない苗で状況から見て植え直したほうがよい場合は、早急に苗の手配または播き直しを行う。
- (3) 被害の激しい株や落ち葉、枯葉は取り去って圃場を清潔にする。
- (4) 病害発生防止のため殺菌剤を予防散布する。
- (5) 草勢が弱い場合は回復のために薄い濃度で葉面散布を2～3回行う。
- (6) 大雨後の根が弱った状態で強光線、乾風に当たると急激な萎れが生じやすいので、日除けを短期間行って茎葉の萎れを防ぐ。
- (7) マルチ栽培で浸水により土壌が過湿になっている場合はマルチの肩の部分上げる等し乾燥を促す。
- (8) 風台風の場合は、台風の進路によっては塩害の恐れもあるのでその場合は、ただちに植物体を清水で洗い流す。
- (9) ビニールの破損、パイプの曲がり等の補修を行う。
- (10) 電照を行っている場合は停電に留意する。きくは3日間の短日で内的に花成物質が生成され1週間で花芽分化が始まる。3日以内の停電であればそのまま電照を再開する。
- (11) 鉢物、花壇苗等では損傷のひどいものは早期に処分し、軽微な場合には殺菌剤の散布、追肥等を行い回復を図る。

## 茶

< 作物気象災害対策指針を参考に、特に次の点に注意する。 >

### 1 事前対策

- (1) 明きよ・暗きよ・周囲の排水溝などといった排水対策を講じる。
- (2) 新・改植の幼木園では、礫や木の枝及び敷草などが排水溝に流入しやすいので、清

- 掃・整備を十分に行い、雨水のせき止めが生じないようにする。
- (3) 幼木園や傾斜園では表面流去水による土壌浸食を防止するため敷草を行う。
  - (4) 苗ほや被覆茶園の施設を補強する。
  - (5) 潮風害が予想される時は、防風垣を設置したり、株面を直接被覆するなどして、被害の軽減を図る。
  - (6) 幼木園では、強風で幹が揺さぶられないよう対策を講じておく。

## 2 事後対策

- (1) 被害の初期には排水対策を講じ、被害の拡大防止に努める。
- (2) 被害園では、樹勢の回復を最優先とし、摘採・整枝・施肥・防除などには十分留意する。
- (3) 葉ずれ・葉いたみが発生した場合は、殺菌剤を散布する。
- (4) 幼木園などで、強風によって幹が動かされたものは、早めに土寄せを行い、敷草を補給して地際部や根を保護する。
- (5) 葉に塩分を認めたときは、できるだけ早く水洗する。10a当たり4～5トン散水する。
- (6) 葉が塩害により変色した場合、被害軽微で摘採期のときは、被害葉が落葉するまで待つて摘採するか、被害葉を払い落としてから摘採する。
- (7) 被害が先枯れ・枝枯れなど大きい場合には、被害直後にせん除せず、被害部位を確認し、樹勢の回復を待つて、秋あるいは翌年の春に枯死部の直下でせん除する。